

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105920		
法人名	有限会社 和(なごみ)		
事業所名	グループホーム やすらぎ東古松		
所在地	岡山市北区東古松南町4-35		
自己評価作成日	平成25年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105920&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成25年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の親が安心して預けられるグループホーム。
 そして入居してバックを支えている家族も将来入りたいと予約したいホーム。
 現在入居している方々に感謝されるホーム。(地区の小学生が取材に訪れて「こんな所が一杯増えたら家族も楽で私も楽しいのになあ」と入居者が言っていた。)
 そして退去後も家族の方が訪れるホームです。又、介護度が良くなって、小規模多機能に移って頂く例も多くなっています。目標達成計画に掲げて取り組んできた「家族との連携」や「共用空間の活用」も目標を達成することができた。ホームの畑ではトマト、きゅうり、玉ねぎ、さつまいも等実りを収穫し入居者に食して頂いた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にあるホームであるが、歩いて5分もすれば公園があり自然に恵まれた環境である。一年を通して雨の降る日以外は散歩は欠かせないという。春を思わせるような暖かい陽ざしの中、一緒に散歩に付き合い、公園のベンチに座ってリハビリを兼ねたボール遊びを利用者さんと共に楽しんだ。また、特にここのホームは毎食の食事のメニューが素晴らしい。30品目を摂取できるよう栄養バランスを考えての食事作りという。和洋中とレパートリーも多彩である。リビングではジグソーパズル、数字ならべ等思い思いに脳トレーニングに励む人もいて、居心地の良い空間である。高齢の我が母を看ながらこの地域の人のお役に立てればと、当初6人の利用者で始めたこのホームも、9人になっても和気あいあいと楽しく、毎日美味しいものをいただきながら健康な暮らしが続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のみならず往診に来て下さっているドクターが将来はこのホームに入りたいと言って下さっているし、近くの住民も「入る様になったら入れて下さいね」と言っている。	自分の親に「こんな老後を」と願う管理者は有言実行で、利用者が我が家で過ごしているような手厚いケアをしている。入所時より介護度が下がり、心身機能が良くなる人もいて、小規模多機能ホームへ移った例もある。この様な理念を抱き続けているホームと思う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達が(大人も子供も)時々庭になっている柿や田舎から送って来たと言ってみかんや野菜の差し入れをして下さったり犬や猫と一緒にホームに立ち寄って下さる。	日課の散歩で出会う地域の人と話をしたり、町内の行事や夏祭り等に参加している。また、近隣の施設の祭りの後、お菓子等の差し入れがあったり、日頃から地域の人も気軽に立ち寄ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回催される地域の人達の会合に出席、情報交換しており、ホームを見学して少し体験して頂く様に地域の人におすすめしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の人に介護保険の詳しい話をしたり疑問点についてもいつも誠意を持って答えたり話し合いをしている。又、地域の高齢者と会食しながらの集いもしている。	月1回、ホームのすぐ近くの公園の一角にある集い場で地域の人が集い、おしゃべりや歌をうたったり、食事をしながら近況報告をし合ったり、情報交換している。この場に管理者は参加して、ホームの現状を報告する等地域交流を図り、おおいに活用している。	運営推進会議の有り方について、今のこのホームの状態の中で可能な事から少しずつ取り入れ、少しでもホームの運営やサービス向上に役立てていく為に工夫を重ねたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは地理的に近く(同じ小学校区)でもあるので度々密に連絡を取っており、担当者とは全てにおいて把握して頂いている。	市の担当者とは連絡を取り合い、ことあるごとに相談している。管理者の人柄もあり連携がとても良い。今回利用者が9人体制に拡大するにあたっては綿密な指導をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠しておらずドアホンをしないでいきなりドアを開いて訪問される事も多い身体拘束は一切ない。	職員の手が足りず目が行き届かない時は、少しの間玄関に施錠する時もあるが、日頃は施錠はしない。利用者が外に出たい時は職員と一緒に付いて行く等、安全対策には特に気を配っている。また、職員の見守りが十分行き届いているので拘束は考えられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は常に学ぶ機会を持ち近隣のグループホームと連絡を取り情報を交換している。又、それらを活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員もあらゆる方向にアンテナをはり情報を共有し運営に反映させている。又家族にも出来るだけホームを訪問して頂ける様こまめに電話をして情報を流す様にしている。	玄関に意見箱が設置されていた。遠方の家族とも連絡を取り合い、近況報告したり、本人や家族の要望や意見にもよく耳を傾け、職員間で共有し対処、支援している。管理者は認知症の人を看ている家族についても理解が深く、色々な対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見や提案を聞いてその都度すみやかに反映させている。又、時々外で食事をしながらのミーティングもして話し易い雰囲気も作っている。	職員はシフトの関係上時間差勤務なので、日勤者と夜勤者が揃う夜7時～9時にミーティングをし、意見や提案を話し合っている。また、すべての報告は管理者に届くようにしており、信頼関係も構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ休日等の条件を十二分に取り入れるように管理者は努めている。個々の職員が力を出し切れる様に職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人が研修で学んだ事を職員が職場で発揮できる様又色々な事を深く考える様にトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームやデイサービス、小規模多機能の業者の方のネットワークで助け合ったり教え合ったりお互いに協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからかなりの時間、特別に余分な人員を配置して早く慣れて頂く様配慮している。本人が希望する事は出来るだけ受け入れて差し上げ、家族との電話も希望通り度々してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には家族に頻繁に電話等で連絡を入れ状況報告をして不安をなくす様に努めている。又細かい事でもこまめに情報を電話で入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今一番望んでいるサービスを家族の身になって対応に努めている。例えば内科・皮膚科・歯科の診察は家族の代わりに支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべくして差し上げるのではなく自分のやりたい事を尊重して見守りしながらして頂いている。例えば洗濯量など出来ない人でも支援しながら一緒に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と頻繁に連絡をとり、共に見守ろうと呼びかけている。又誕生日などには家族も一緒に祝いの席について頂ける様頼んだりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい様に支援。又、連れ出して頂いて関係継続が途切れない様にしている。又、連れ出しが難しい家族に代わってこちらからドライブ等連れ出して馴染みの人達に会える様配慮している。	利用者の誕生会には手作りのケーキでお祝いし、家族や知人の参加もある。花瓶には誕生会に家族が持ってきたチューリップ等が飾られていた。また、〇〇さんはちょうお迎えの息子さんとお茶を飲みに出掛けるところであり、嬉しそうな笑顔が印象的だった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々トランプや他のゲームを一緒にして連帯出来る雰囲気を作り出している。皆と一緒に歌を歌ったりして楽しんだり個々が好きな事をして頂いて(例えば手芸や塗り絵・写経等)個人を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻ったり他の施設に移っても訪問してその後の様子を確認している。他の施設に移って亡くなった方も家族が盆や暮れに訪ねて来て下さっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を取り入れそれに添う様努力している。例えば家事が得意な人には洗濯畳や掃除を手伝って頂いたり、そうでない人は脳の刺激となるジグソーパズルや百人一首・手芸・写経等で楽しんで頂いている。	日課である散歩も個人の意思を尊重し、行きたい人が行き、あとの人は自由にホームで過ごしてもらっている。レクリエーションの脳トレも各自思い思いにパズルをしたり、手芸を楽しんだり、部屋で休んだり一人ひとりの自主性を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から出来るだけ詳しく聞き取りそれらに合わせて好き嫌いもなるべく希望に添う様にしている。いつの間にか嫌いなものも無くなっていく。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調に合わせてなるべく活動的に過ごして頂く様努力している。朝は毎日室内で体操風船バレー等で体を動かし、午前の散歩は車椅子の人、シルバーカーの人、杖の人とその人に合わせている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの家族、本人の意見を尊重、職員とディスカッションをしてそれらを反映して介護計画を作成している。	ケアプランは本人・家族の希望をよく聞き立てているが、個人の心身の状況の変化に合わせて適宜柔軟に対応している。ホームの姿勢は介護保険以前の宅老所の良い点を踏襲している様な独特な雰囲気があり、ケアプランへも反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の共有でその都度気付いた事は連絡ノートや会議録で詳しく情報が共有され密に連絡を取って介護計画を作成している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で対応出来ない様な時でも管理者がそれを補いサポートしている。 例えば入院しても毎日病院に顔を出し洗濯物はホームで洗って病院に持って行ったり通院もホーム側ですることが多い。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2カ月に1度ぐらいある町内の行事にも積極的に参加しており町内の一員としての役割を楽しんでいる。 例えば地域の盆踊り・お祭り・もちつきに入居者も参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは深夜でも携帯で連絡が出来る安心して任せられ適切な医療を受けられている。 ホーム側からも密に連絡してどんな症状も見逃さず共有している。	以前は数ヶ所のかかりつけ医と提携していたが、今はかかりつけ医は一人である。日頃から利用者の状態をよく把握し、連携も密に取りあっている。 かかりつけ医には何でも相談しやすく、ホーム側も絶大な信頼を寄せている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職はいないが職員の気づきで適切なアドバイスがあり、即行動が出来る。 例えば薬が変わったりした時など副作用の出方に注意して観察、ドクターと協力して処置出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院中は家族以上に病院とは密に連絡を取り、家族に代わって洗濯物の交換等ホームで行っており、主治医からも家族と同様に扱ってくれて情報も家族と同様に下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて今後の事は家族と密に連絡をとりその時々状況に即して支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方は慎重に考慮し、家族の希望や状況を勘案しつつ、かかりつけ医や職員、家族と連携、相談しながら取り組んでいる。看取りは今後の重要な課題だが、念のため家族には同意の上で、特養の契約もしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターの指示を仰ぎ救急車が来るまでバトンタッチ出来る様血圧等色々な情報がすぐ届けられる様職員も訓練出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての部屋より出口に直結しているので迷わず時々の訓練と同じに避難できる。 年2回の訓練では短時間で避難出来ており体の不自由な人には職員がつき自分一人で避難出来る人は声かけしながら訓練している。	火災報知機を設置したが、今の所スプリンクラーをつける義務はない状況なので、代わりに防火用として風呂の水を安全を確保した上で貯水している。ホームは平屋の構造で避難経路が分かり易く、ホームは平屋の構造で避難経路が分かり易く、歩行が可能な人も多く、避難誘導しやすい。	緊急時の一時避難場所を地域の住民と話し合いお願いしてみてもどうだろうか。 連携が取れる住民にはチャンスを作ってホームに入ってもらおう事も良い。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は年長者に教えて頂く様に誇りを損なわない様声かけをしたり又なるべく昔の元気だった頃得意だった事を聞いて自信を取り戻してもらっている。	利用者を苗字で〇〇さんと呼び、人格を尊重している。管理者の102歳になる母親も苗字で呼び、身内も利用者も分け隔てなく接している。陸上の選手だった人、編み物の得意な人等の昔話に耳を傾け職員間で共有し、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様にしてもらいたいのか時々希望を聞いたり喫茶店等にも連れ出したりしている。外食も時々行き、楽しんでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中、雨の時以外は散歩に出るが行きたくない時はホームにいて他の事が出来る様希望に沿っており、庭に出て、日光浴をして頂いたりもする。又家族と一緒に出かけたりホームから祝事や法事にも出席している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどんな服が良いのか個々に聞き選んでもらったり時々マニキュアやお化粧品も職員が手伝って頂くとても楽しそうにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事は味はもちろん色でも楽しんで頂き希望を聞いて希望に添った献立にしたりしている。毎月1日は赤飯、行事会はお寿司で御馳走を作っている。又誕生日などは家族と一緒に会食して頂いている。	生活の中での楽しみの一つは食事であり、栄養バランスを考え、30品目を摂取できるような献立を実施している。目でも楽しめる様に食器にも趣向をこらし、食事中はテレビを消し懐かしい童謡や唱歌をかけて、楽しく食事できる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなるべく多く取って頂ける様三度の食事以外にも10時・15時のおやつ以外にも度々口にして頂く。栄養士も居て、栄養的には1日に30品目を摂取出来るのを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っており、その都度入れ歯のチェックも行っている。又週1度は入れ歯洗浄液で清潔を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援	排尿パターンを職員が把握して声かけして全員トイレに誘導しており失敗を極力少なくしている。入居の時紙パンツだったのが布パンツや失禁パンツに改善される例が多い	排泄リズムを把握して、声掛けしてトイレ誘導したり、パンツの交換も居室でもらう等、プライバシーに配慮している。比較的元気な方が多く、自分でトイレに行ける人には、見守りながらさりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の他便が出易くする薬でこまめに調節出来ているので個々に排便で困る事は殆どない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が望ましいが隔日には必ず入浴。又排便等により連日も実施。ゆったりしたい人には個々にそって歌を歌ったり楽しくおしゃべりしながら入っている。	入浴はコミュニケーションの場であり、職員と利用者とのおしゃべりが弾み楽しい入浴タイムとなっている。入浴拒否の人には声掛けはするが、本人の意思を尊重し、無理強いはしない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもベットで休息出来るがなるべく日中はリビングで過ごして頂く為、夜は安眠出来ていて昼夜逆転する様な事はない。もしその兆候があればドクターと連絡を取って軽い眠剤で殆ど解決しており基本的には薬は少なくしていく方針を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと密に連絡を取りながら用量も抜いたり追加したりと変化に応じて支援している。症状の変化には管理者に即報告がありドクターより受診の必要があればすぐ連れて行き診察して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	町内の行事に参加したり誕生会や外食・お花見等きつくならない様に気を配りながら支援している。又編み物や刺繍の完成で達成感も味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中、雨でない限り散歩に出かけ、町内行事にも積極的に参加し顔馴染みとなっている。喫茶店・病院への外出も家族同様に支援している。家族の祝事や法事等も積極的に(ホームで送り迎えをしたりして)出席出来る様支援している。	春を思わせるような暖かい日に日課の散歩に出掛けた。すぐ近くに公園があり、リハビリを兼ねてボール遊びをしたり、お話したり、日向ぼっこしたりと健康にもよい。家族とお茶を飲みに出掛ける人もいるという。日常的な散歩はこのホームの伝統になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にホームより職員と一緒に連れだっ て出るがそれぞれに欲しいものを買って頂 きホームで支払いしている。すべてホームの 食費として支払い本人から頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時は電話をかけて頂いたり手 紙を書いたものをポストに入れたり支援して いる。又かかってきた電話も電話口に出て 頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にリビングを飾りその飾り物も一緒に 作成したりしている。花々も庭に植えたり室 内に生けている。夏には庭に野菜も植えて 実りの楽しさを味わって頂いている。	改築して広くなったリビングは利用者の憩いの場 であり、ほとんどの人が日中はここで過ごし、居室 は寝るだけだという。節分の日に新聞紙を小さく丸 め豆に見たてて豆まきをしたり、趣味の編み物を 楽しむ人もいて居心地良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	同じテーブルの人との話で職員は見守りし ていて話に花が咲いている時は聞き役に徹 している。又、一人になりたい人はソファ ーに座って、一人を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	自分の家で使って頂いた物を持ちこんで頂 き安心して居室で過ごして頂ける様に支援 している。読書の本、趣味の本など家族も自 由に差し入れている。又仏壇の持ち込みも されている方もいる。	位牌や仏壇が置いてあったり、自宅で使っていた 馴染みの品々で飾られ、手作りの紙のお雛様や ぬり絵等の作品が壁に飾ってある。夫や飼い犬の 写真を置いている人もいた。窓を大きくとり部屋に 明るい陽ざしが入るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	職員に余力があるのでゆったり見守りが出 来ている。余りこちらが手を出さず、なるべく 時間はかかっても自立に近づけている。又ト イレには「トイレ」と書き「洗面所」や各個室 に名前を書いて判り易くしている。		